

えにわファミリーガーデン りりあ の運営状況について（現地調査）

1. 施設概要

- (1) 施設名称：えにわファミリーガーデン りりあ
- (2) 所在地：恵庭市南島松 828 番地 3（花の拠点 はなふる センターハウス内）
- (3) 供用開始：令和2年（2020年）11月11日
- (4) 主な利用対象：生後6か月から小学校6年生までの子どもおよびその保護者・付添人
- (5) 利用方法：

- クール制（時間区分制）を採用し、時間帯ごとに利用者の入替を実施
- 混雑緩和および安全確保の観点から、定員管理を行いながら運営
- 繁忙期や利用状況に応じ、運営方法を調整

- (6) 利用料金（1クール60分あたり）：

区分	恵庭・千歳市民※	左記以外
3歳未満	無料	250円
3歳以上	200円	250円
保護者（付添人）	200円	250円

※千歳市民の料金は、連携協定による割引後の金額

- (7) 休業日等：

- 定期休業日：毎月第4水曜日
- 臨時休業日：年末年始
- 施設点検やイベント対応等により、利用時間や休業日に変更となる場合がある

- (8) 施設の特徴：

- 屋内型キッズスペースとして、天候や季節に左右されず利用可能
- 年齢別に配慮した遊具配置
- 保護者が見守りやすい空間設計

図1：えにわファミリーガーデン「りりあ」イメージパース



2. 年度別利用者数の推移

○令和 2 年度（2020 年度）：11,010 人

※11 月 11 日供用開始

○令和 3 年度（2021 年度）：20,821 人

○令和 4 年度（2022 年度）：39,675 人

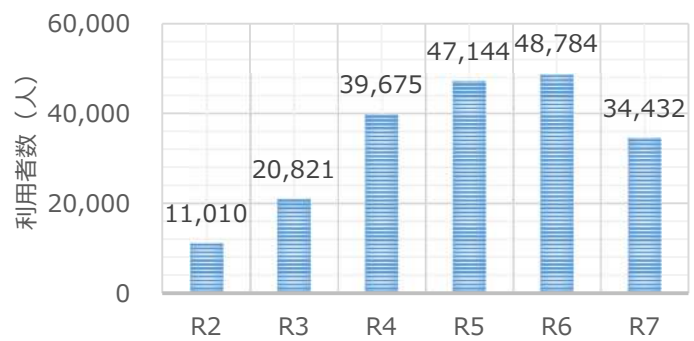
○令和 5 年度（2023 年度）：47,144 人

○令和 6 年度（2024 年度）：48,784 人

○令和 7 年度（2025 年度）：34,432 人

※4～11 月末現在

図 2：年度別利用者数の推移



3. 年度別売上実績の推移

○令和 2 年度（2020 年度）：2,026,150 円

※11 月 11 日供用開始

○令和 3 年度（2021 年度）：4,395,650 円

○令和 4 年度（2022 年度）：8,574,100 円

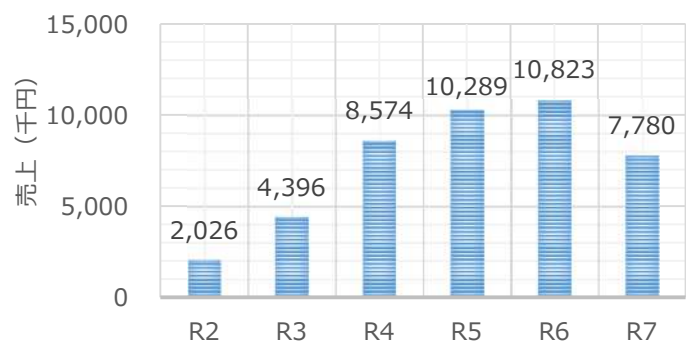
○令和 5 年度（2023 年度）：10,288,850 円

○令和 6 年度（2024 年度）：10,823,000 円

○令和 7 年度（2025 年度）：7,780,000 円

※4～11 月末現在

図 3：年度別売上の推移



4. 市内・市外利用者割合の推移

(1) 利用者区分の整理（前提条件）

利用者区分については、年度により集計方法が異なっている。

○令和 2 年度（2020 年度）から令和 5 年度（2023 年度）までは、「恵庭市民」と「市外」の 2 区分で集計

○令和 6 年度（2024 年度）以降は、「恵庭市民」「千歳市民」「その他市外」の 3 区分で集計

このため、年度間の推移を整理するにあたっては、区分方法の違いによる影響を避けるため、全年度を通じて以下の 2 区分に再整理して示している。

○市内利用者：恵庭市民

○市外利用者：千歳市民およびその他市外

【参考】千歳市との連携協定の位置付け

千歳市民の取扱いについては、「えにわファミリーガーデンりりあ利用に係る連携協定書」に基づき、千歳市民が恵庭市民料金で利用できる制度として運用している。このため、市外料金との差額は千歳市が負担する取扱いとなっており、千歳市民は一般の市外利用者とは異なる区分として整理している。

(2) 市内・市外利用者割合の年度別推移

各年度の集計実績を基に、市内・市外別の利用者割合を整理すると、年度ごとに構成比の変動が見られる。

令和 2 年度（2020 年度）は市内利用者が過半数を占めていたが、令和 3 年度（2021 年度）以降は、市外利用者の割合が高い年度が続いている。

図4：市内在住者と市外在住者の利用者の割合（100%積み上げ縦棒グラフ）

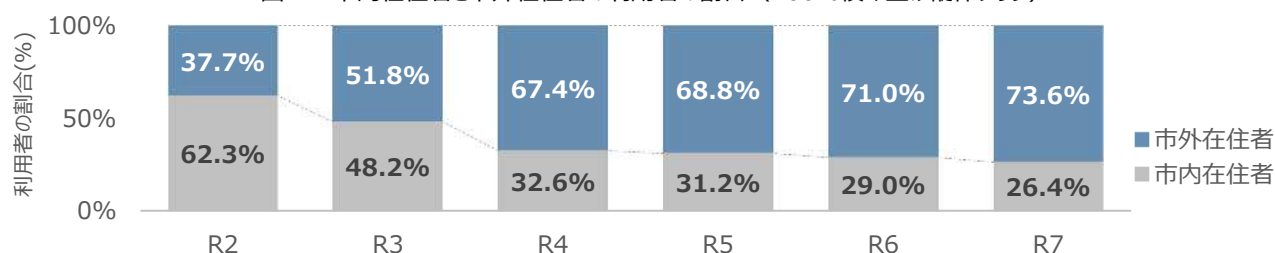
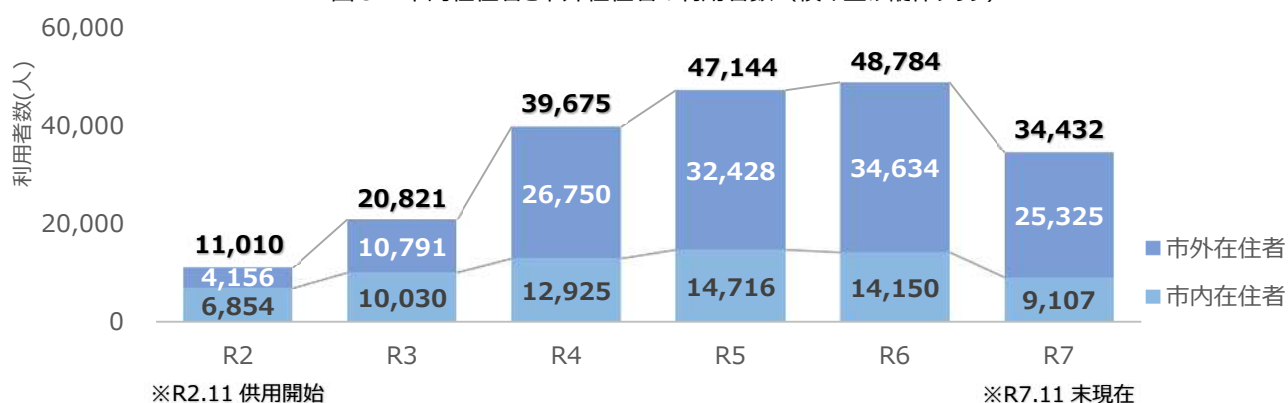


図5：市内在住者と市外在住者の利用者数（積み上げ縦棒グラフ）



5. 運営形態の変化および指定管理者の取組

えにわファミリーガーデン「りりあ」は、令和2年（2020年）11月の供用開始から令和4年度（2022年度）までは、市による直営管理により運営していた。

令和5年度（2023年度）以降は、指定管理者制度に移行し、利用実態や混雑状況を踏まえた運営方法の見直しや改善を行っている。

主な取組は、次のとおりである。

○混雑緩和と利用機会の確保を目的とした利用時間区分（クール制）の見直し

※1時間交代制（9:30～、10:40～、13:00～、14:10～、15:20～／計5回）とし、入替制の運用により、混雑の平準化と利用機会の拡大を図っている。

○指定管理者が自主的に実施するイベントや企画による利用促進の取組

○利用者アンケート等を通じた意見把握と、運営への反映

これらの取組は、指定管理者の創意工夫により実施しているものであり、利用環境の向上や利便性の確保を図ることで、利用者数の増加に寄与している。

図6：えにわファミリーガーデン「りりあ」における自主事業（例）

りりあ子どもワークショップ

手形ぺったん

積み木積み上げチャレンジ

「ミニクリスマスブーツをつくろう！」

退場イベント「ふわふわベッド」



6. 安全管理および運営上の配慮

施設の運営にあたっては、利用者の安全確保を最優先とし、次のような取組を行っている。

○遊具および施設設備の定期点検の実施

○清掃時間の確保による衛生管理の徹底

○株式会社ボーネルンドによる遊び場運営に関する研修会の継続実施

※（株）ボーネルンド：子どもの発達段階に応じた遊び環境の創出を専門とし、遊具の企画・販売のほか、全国の公共施設等において遊び場の運営支援や職員研修を行っている企業。

また、職員については、利用者対応や安全管理に関する研修を毎年度実施するとともに、利用状況に応じた職員配置を行い、事故防止および適切な対応が図られる体制を整えている。

これらの取組により、これまで重大な事故等は発生していない。

7. 課題と今後の方向性

(1) 主な課題

○繁忙期や休日における混雑対応

・繁忙期や土日・祝日に利用が集中する傾向がある。

・このため、利用者の安全確保と利便性向上の観点から、施設定員のおおむね 50%程度を目安とした予約枠の設定や、予約システムの導入について検討している。

○利用者数の季節変動

・長期休暇期間等に利用が集中する一方で、閑散期には利用が落ち込む傾向が見られる。

・このため、団体利用の促進やポイントカード事業の継続など、年間を通じた利用の平準化に向けた取組について検討している。

○収支改善

・利用促進策の充実や料金体系のあり方について、施設の公共性や利用実態を踏まえつつ検討していく必要がある。

○将来的な施設老朽化への対応

・供用開始から一定期間が経過していることを踏まえ、花の拠点センターハウス全体を対象とした長期的な修繕計画の策定について検討している。

(2) 今後の方向性

○利用実績や混雑状況を踏まえた運営方法の見直し

・利用状況を踏まえ、安全性と利便性を両立した持続可能な施設運営について検討する。

○利用者ニーズを反映したサービス改善の検討

・利用者アンケート等を通じて把握した意見を運営に反映し、サービス向上につなげる。

利用者アンケートによる具体的な対応(例)

【利用者の声】

授乳室が 1 室であるため、土日の混雑時には利用できない場合があり、困っている



【対応後】

2 階女子トイレ内の更衣室を部分改修し、混雑時の授乳室として開放することで改善